■平重衡 武将。源氏の一斉蜂起を迎撃に際し、南都焼打ち、平氏滅亡に際して、南都へ送られて報復処刑された。

たいらのしげひら

藤原基衡没・1157= 生。_平清盛の五男。母は平時子。

平治の乱・・・1159= 2歳：

・・・・・・1162= 5歳：従五位下に叙し、
・・・・・・1163= 6歳：尾張守に任ぜられた。

源頼政内昇殿1166= 9歳：従五位上、尾張守を去って左馬頭となる。

巖島神社・・・1168=11歳：正五位下から従四位下。

平徳子入内・1171=14歳：従四位上、
・・・・・・1172=15歳：中宮亮を兼任して正四位下。

法然浄土宗始1175=18歳：

・・・・・・1178=21歳：中宮亮から春宮亮に遷兼。

治承のケテタ 1179=22歳：左馬頭を去って左近衛権中将に任ぜられるが、ほどなく辞退。

源氏一斉蜂起1180=23歳：藏人頭に補される。以降は*清盛の子息として叛乱の鎮圧に尽力。この年、重衡は東国へ向け発向するが路次から帰洛して園城寺を攻め、数千とも数万ともいう軍兵を率い大將軍として南都へ向かい、南都焼打ちを敢行し興福寺・東大寺などの諸寺院を焼き尽して帰洛した。このとき30余人の僧徒が梟首され、残った人々は難を免れた春日大社へ逃げ込んだという。これ以来、南都僧侶たちの怨みを一身に受けることとなる。

平清盛没・・・1181=24歳：*藏人頭を去って左近衛権中将に還任し、同時に従三位に叙される。これ以来、三位中將と呼ばれるようになる。父清盛の死を悼む間もなく尾張へと発向する。このとき人々は、重衡がこの追討使を受けたのは彼がことに武勇にすぐれているためであるとうわさし、彼のつらい立場にいささか同情したようである。しかし堪武勇之器量といわれた重衡はみごとにその役割を果し、尾張墨俣川に源行家軍を破って帰洛した。しかし平氏の反撃もここまでで、

後鳥羽天皇・1183=26歳：甥の平資盛が従三位右近衛権中将となつてからは、資盛を新三位中將と呼ぶのに対し重衡は本三位中將と呼ばれた。重衡の昇進の早さは、平治の乱以後の平氏の台頭ぶりを如実に示しているといえよう。平氏一門とともに都を後にしなければならなかった。

・・・・・・1184=27歳：源義経・範頼軍との最初の合戦である一ノ谷の戦いで平氏軍は大敗し、重衡も明石浦で生虜となつてしまった。入京したのち重衡は屋島の平宗盛のもとに使者を送り、平氏との和平工作に一役買ったが、事態が進展しないまま東国へ送られ、伊豆・鎌倉で1年余りを過ごすこととなる。この間に千手前との間に咲いたという恋の話は「吾妻鏡」「平家物語」に記されて有名。

平氏滅亡・・・1185=28歳：*壇ノ浦で生虜となつた平宗盛父子が鎌倉へ下り、重衡は彼らと合流して京へ送り返される。途中、宗盛父子は近江で梟首されたが、重衡は南都衆徒の強請により南都へ送られて処刑され、首は奈良坂に懸けられたという。南都焼打ちに対する僧侶たちの報復であった。